

様式8

論文内容要旨

報告番号	甲先第 269 号	氏名	湯浅恭史
学位論文題目	地域中小企業の事業継続計画(BCP)の実効性を高めるための普及と実践に関する研究		

内容要旨

我が国では、2005年に内閣府が事業継続ガイドライン第一版を発行し、企業に対して、災害時の事業継続に努力する必要性を求めるようになった。この事業継続の取り組みは、企業価値を高める観点から有効であることとして、2005年以降、国内では内閣府をはじめ、行政、業界団体等を中心に BCP(事業継続計画)の普及が行われてきた。しかし、特に中小企業への BCP の普及は進んでおらず、リスクが多様化する現在にあって喫緊の課題となっている。

筆者は、2005年より徳島県において BCP の普及啓発業務に従事し、徳島県内企業と BCP の取り組みを実践してきた。経営資源に限りがある中小企業において、ガイドライン等を参考にしつつも、その企業ならではの強みを活かした取り組みや弱みを補う方法を検討し、実効性を高めるための実践をしてきた。

本研究では、前半部分では BCP/BCM(事業継続マネジメント)の概要及び徳島県内で実践してきた BCP/BCM の普及啓発の取り組みから、中小企業が BCP を策定するだけでなく BCM として運用することができる支援体制の構築に必要な要素について明らかにする。後半部分では、徳島県事業所での台風時の事業継続対応から代替戦略の必要性や他社との連携の必要性、地域との連携の必要性から、中小企業の BCP の実効性を高めるために必要な実践組織、重要業務の代替戦略のあり方、BCP/BCM に取り組むことでの売上・利益へのつながり、地域における企業としての平時からの役割について、実践例により明らかにしていく。

本論文の第2章では、BCP/BCM の概要と国内における現状について解説を行い、今後の課題について述べる。

第3章及び第4章では、徳島県における BCP/BCM の普及啓発について取り上げ、第3章では、中小企業の BCP への取り組みの現状、全国での BCP 普及啓発の取り組みを整理した上で、徳島県で実践している産官学が連携した BCM のプロセスに応じた支援方策について述べ、課題等について考察を行う。

第4章では、普及啓発方策の一つである災害対応模擬演習について、その効果と普及に向けた取り組みについて徳島県での実践から課題を抽出し、考察を行う。

第5章では、徳島県内における2014年の台風被害についてヒアリング調査を行い、分析し、問題点や課題について考察を行う。

第6章では、第5章で抽出した課題の一つである代替戦略の実効性を高める取り組みとして、建設業者による遠隔地連携を考案し、その実践により、さらなる課題を抽出する。

第7章では、BCP の一環としての地域との連携について、製造業における連携による地域との協働とその実践について述べ、その課題等を抽出する。

第8章では、結論として、本研究のまとめを行い、今後の研究の課題等について述べる。